

1 ことわざ (犬棒カルタより)

・・・現代使われている言い回しに変更したものもある。

① い 犬も歩けば棒に当たる

犬も歩けば棒に当たるとは、出しゃばると思わぬ災難にあうという戒め。また、じつとしていないで、何でもいからやってみれば思わぬ幸運にあうことのとたとえ。



② ろ 論より証拠

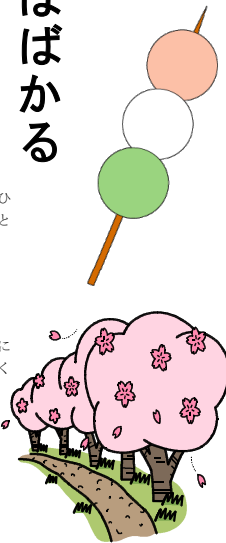
論より証拠とは、口先で議論を重ねるよりも、証拠を出したほうが物事は明確になるということ。

③ は 花より団子

花より団子とは、風流よりも実益、外観よりも実質を重んじることのとたとえ。また、風流が分からない人を批判するときの言葉。

④ に 憎まれっ子世にはばかる

憎まれっ子世にはばかるとは、人から憎まれるような者ほど、逆に世間では幅をきかせるものであるということ。



⑤ ほ 骨折り損のくたびれ儲け

骨折り損のくたびれ儲けとは、苦勞するばかりで利益はさっぱりあがらず、疲れだけが残ること。

⑥ へ 下手の長談義

下手の長談義とは、話が下手なくせに、長々と話をすること。また、話の下手な人ほど長話をする傾向があること。

⑦ と 灯台下暗し

灯台下暗しとは、人は身近なことには案外気が付かないものだということ。たとえ。

昔の照明(海の灯台ではない。)



⑧ ち 塵も積もれば山となる

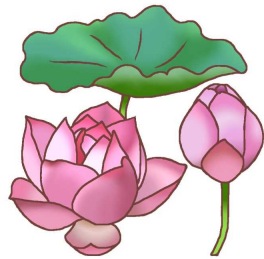
塵も積もれば山となるとは、小さな事をおろそかにしてはならないという戒め。

⑨ り 良薬は口に苦し

良薬は口に苦しとは、自分のためになるような注意は、素直に聞きづらいものだということ。

⑩ ぬ 沼地にも蓮の華

沼地にも蓮の華とは、汚い沼池でも、蓮は美しく咲く。転じて、悪い環境の中で人も人は清く正しく生きられるものである。ということのたとえ。



⑪ る 瑠璃も玻璃も照らせば光る

瑠璃も玻璃も照らせば光るとは、優れた素質や才能をもつ者は、どこにいても目立つということ。また、優れた者は、活躍の場を与えられれば真価を発揮するとい

⑫ **を 老いては子に従え**

老いては子に従えとは、年をとったら出しゃばったり我を張ったりせず、何事も子に任せて、これに従っていく方が良いということ。

⑬ **わ 笑う門には福来たる**

笑う門には福来たるとは、いつもにこやかに笑っている人の家には、自然に幸福がやって来るということ。



⑭ **か 可愛い子には旅をさせよ**

可愛い子には旅をさせよとは、我が子が可愛いなら、親の元に置いて甘やかすことをせず、世の中の辛さや苦しみを経験させた方が良いということ。

⑮ **よ 葦のずいから天のぞく**

葦のずいから天のぞくとは、細い葦の茎の管を通して天井を見て、それで天井の全体を見たと思ひ込むこと。自分の狭い見識に基づいて、かっさに判断することのたとえ。

⑯ **た 旅は道連れ世は情け**

旅は道連れ世は情けとは、旅をするときに道連れがいると心強いように、世の中を渡っていくには人情をもって仲良くやっていくことが大切だということ。

⑰ **れ 礼も過ぎれば無礼になる**

礼も過ぎれば無礼になるとは、礼儀を尽くすことも、度が過ぎればかえって失礼にあたるということ。

⑱ **そ 損して得とれ**

損して得取れとは、一時的には損をしても、将来的に大きな利益になって返ってくるように考えよということ。

⑲ **つ 綴れを着ても心は錦**

綴れを着ても心は錦とは、粗末なものを着ていても内面の心を良くしなさいという教え。

⑳ **ね 念には念を入れよ**

念には念を入れよとは、用心の上に、さらに用心を重ねよということ。

㉑ **な 泣きっ面に蜂**

泣きっ面に蜂とは、不運・不幸が重なることのたとえ。



㉒ **ら 楽あれば苦あり**

楽あれば苦ありとは、苦しいことがあれば、あとで楽しいことがある。逆に楽しいことがあれば苦しいこともある。人生良いことばかりでも、悪いことばかりでもないということ。

㉓ **む 無理が通れば道理引っ込む**

無理が通れば道理引っ込むとは、道理に反することがまかり通る世の中なら、道理にかなった正義は行われなくなるということ。

㉔ **う 嘘から出たまこと**

嘘から出たまこととは、嘘として言っていたことが、結果として本当になってしまふこと。また、冗談で言ったことが、偶然にも真実になること。

②5 む 井の中の蛙大海を知らず

井の中の蛙大海を知らずとは、知識、見聞が狭いこと
のたとえ。また、それにとらわれて広い世界があること
に気付かず、得意になっていている人のこと。

②6 の 喉元過ぎれば熱さ忘るる

喉元過ぎれば熱さ忘るるとは、苦しいことも過ぎてし
まえば、その苦しさや恩も簡単に忘れてしまうというこ
と。

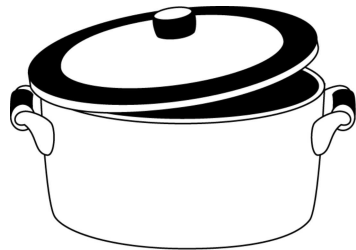
②7 お 鬼に金棒

鬼に金棒とは、強いものが何
かを得て、さらに強くなるこ
とのたとえ。



②8 く 臭い物に蓋をする

臭い物に蓋をするとは、都合の悪いこと
や悪い話が他に漏れないように、一時しの
ぎの方法で隠すことのたとえ。



②9 や 安物買いの銭失い

安物買いの銭失いとは、値段が安いものは品質が悪い
ので、買い得と思っても結局は修理や買い替えで高くつ
くということ。

③0 ま 負けるが勝ち

負けるが勝ちとは、場合によっては、争わないで相手
に勝ちを譲った方が自分にとって有利な結果になり、自
分の勝ちに繋がるということ。

③1

け 芸は身を助く
芸は身を助くとは、一芸を身に付けておくと、いざと
いうとき生計を助けることもあるということ。

③2

ふ 河豚は食いたし命は惜しし
河豚は食いたし命は惜ししとは、快樂や利益は得てみ
たいが、後のたたりが怖くてためらうことのたとえ。

③3

こ 転ばぬ先の杖
転ばぬ先の杖とは、失敗しないよう
に、万が一に備えてあらかじめ十分な
準備をしておくことのたとえ。



③4

え 得手に帆を揚げる
得手に帆を揚げるとは、絶好の機会が到来し、それを
利用してはりきって行動を起こすこと。

③5

て 出る杭は打たれる
出る杭は打たれるとは、頭角を現す人は、とかく人か
ら憎まれたりねたまれたりすることのたとえ。また、出
すぎた振る舞いをするると非難されて制裁を受けることの
たとえ。

③6

あ 頭隠して尻隠さず
頭隠して尻隠さずとは、悪事や欠点などの一部を隠し
て、全部を隠したつもりでいること。

③7

さ 猿も木から落ちる
 猿も木から落ちるとは、ある事柄
 が得意な者でも、時には失敗をする
 ことがあるというたとえ。



③8

き 聞くは当座の恥
 聞くは当座の恥とは、聞くは一時の恥聞かぬは一生
 の恥ともいう。知らないことは積極的に質問するべきだ
 という教え。

③9

ゆ 油断大敵
 油断大敵とは、油断は失敗の原因であることが非常に
 多いから、何よりもこわい敵であるということ。

④0

め 目の上の瘤
 目の上の瘤とは、邪魔であったり、目ざわりであった
 りするもの。主に、自分より地位や能力が上の者に対し
 て使う。

④1

み 身から出た錆
 身から出た錆とは、自分の犯した言動が原因で、苦し
 んだり災いを受けたりすること。

④2

し 知らぬが仏
 知らぬが仏とは、知れば腹が立ったり悩んだりするよ
 うなことで、知らなければ平静な心でいられるという
 ことのたとえ。また、本人だけが知らずに澄ましている
 さまを、あざけって言う言葉。

④3

縁の下の力持ち

縁の下の力持ちとは、人の目につかないところで、他人のために支える苦労や努力をすること。また、そのような人。

④4

ひ 貧乏暇なし

貧乏暇なしとは、貧乏をしていると、食べていく為の仕事などの用事が多くなり、他のことをする時間的余裕がないということ。

④5

も 門前の小僧習わぬ経を読む

門前の小僧習わぬ経を読むとは、日頃から見たり聞いたりしているものは、いつのまにか覚えてしまうものだということのたとえ。



④6

せ 背に腹はかえられぬ

背に腹はかえられぬとは、大事なことのためには、他のことを犠牲にするのはやむを得ないというたとえ。

④7

す 好きこそ物の上手なれ

好きこそ物の上手なれとは、どんなことであつても、人は好きなものに対しては熱心に努力するので、上達が早いということ。



④8

京の夢 大坂（大阪）の夢

夢の中なら、色々なものを実現したり見たりできること。現実的ではないことを言うときに使う。

④9

千里の道も一歩より始まる

千里の道も一歩より始まるとは、遠い旅もまず一歩から始まるように、どんな大きな計画も手近なところから実行するところから始まるということ。

(おまけ①)

⑤0

早起きは三文の徳

早起きは三文の徳とは、朝早く起きれば健康にも良く、何かと良いことがあるということ。

(おまけ②)



2

四字熟語

①

悪戦苦闘

強い敵との戦いで苦しんで闘うこと、困難な状況で苦しんでいる間に努力すること。

②

意气投合

複数の人の気持ちや意見が一致して、気持ちが一つになること。

③

以心伝心

お互いに言葉に出して言わなくても気持ちが通じること。



④ 一期一会

だれに対する出会いであっても、人生において何らかの意味を持つという意味。

⑤ 一日千秋

待ち望むことによつて、まるで一日が千年の長さにも感じられるほどの気持ち。

⑥ 一網打尽

一度の投網ですべての魚を取り尽くしてしまふように、悪いことをした人などを一度につかまえること。

⑦ 一喜一憂

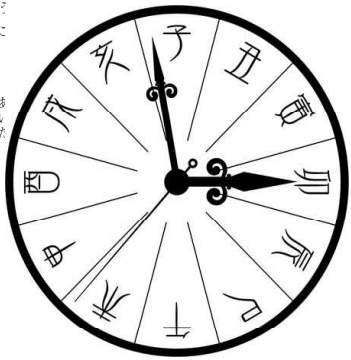
目の前に起こる様々な出来事にとらわれ、いちいち喜んだり悲しんだりすること。

⑧ 一刻千金

わずかな時間でも価値は高く、多くのお金と同じように貴重なこと。

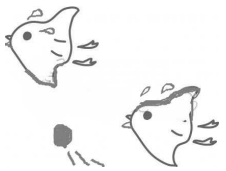
⑨ 一心同体

心を一つにして、ともに同じように動く間がらや、ともと同じような影響を受ける間がら。



⑩ 一石二鳥

たった一回の行動や、あるいはわずかな行動や努力によつて、二つ以上の良い効果が得られること。



⑪ 一長一短

物事は良い面と、悪い面の両方をあわせもつということ。

⑫ 一目瞭然

一目見るだけで、だれの目にも状況が判然としていること。

⑬ 一攫千金

わずかな働きや努力によって大金をつかんだり、たくさん利益を得ること。

⑭ 意味深長

深い意味が込められた言い方。

⑮ 因果応報

発した言動や行動によって生じた結果は、善し悪しにかかわらず最終的に本人に返ってくるということ。

⑯ 右往左往

右に行ったり左に行ったりしてうろとするとする、または、考えや言動がまとまらないこと。

⑰ 温故知新

古い物事や考え方であっても現代に利用方法を工夫すること、逆に新しさに気付いたり感じたりすること。



⑪ 一長一短

物事は良い面と、悪い面の両方をあわせもつということ。

⑫ 一目瞭然

一目見るだけで、だれの目にも状況が判然としていること。

⑬ 一攫千金

わずかな働きや努力によって大金をつかんだり、たくさん利益を得ること。

⑭ 意味深長

深い意味が込められた言い方。

⑮ 因果応報

発した言動や行動によって生じた結果は、善し悪しにかかわらず最終的に本人に返ってくるということ。

⑯ 右往左往

右に行ったり左に行ったりしてうろとするとする、または、考えや言動がまとまらないこと。

⑰ 温故知新

古い物事や考え方であっても現代に利用方法を工夫すること、逆に新しさに気付いたり感じたりすること。

⑱

一所懸命（一生懸命）

一つのことには力を注ぎ努力、行動すること。

⑲

威风堂々

威厳や風格があり正々堂々としている様子。

⑳

栄枯盛衰

非常に栄えた者であっても、いずれ衰えること。

㉑

完全無欠

まったく不備がなく、完全な状態。

㉒

危機一髪

危険が迫っている状態を回避した際に、ほんのわずかな違いで危険をまぬがれることができた状態。



㉓

起承転結

文や物事の流れにとって、事のきっかけから、展開して、結果、結論にたどり着くまでの過程のこと。

㉔

疑心暗鬼

心の中に疑う気持ちがあると、何でもないことでも信じられなくなること。

㉕

奇想天外

実際の世の中には存在しないような、普通では思いつかないほどの奇抜な考え。

②6

喜怒哀楽

喜びや怒り、悲しみや楽しみというような、様々な人間のもつ感情。

②7

玉石混淆

優れたものが、優れてないものに混ざっていること。あるいは、優れたものが、ありふれた普通のものの中に混ざっていること。

②8

公明正大

人々にかくしごとをせず、公平で、不正がなく、言動が正しく、堂々としている様子。

②9

呉越同舟

極めて仲の悪い者同士が、同じ場所に居合わせることで、あるいは、利害が合うとわかれば、ときには協力し合う様子。

③0

言語道断

言葉で語れないほどにひどいこと。

③1

臥薪嘗胆

苦勞に苦勞を重ね、耐えに耐えて目的を果たすこと。



③2

感慨無量

心に深くしみみて計り知れないような、言葉で表現できないしみじみした気持ちがあふれる様子。

②6

喜怒哀楽

喜びや怒り、悲しみや楽しみというような、様々な人間のもつ感情。

②7

玉石混淆

優れたものが、優れてないものに混ざっていること。あるいは、優れたものが、ありふれた普通のものの中に混ざっていること。

②8

公明正大

人々にかくしごとをせず、公平で、不正がなく、言動が正しく、堂々としている様子。

②9

呉越同舟

極めて仲の悪い者同士が、同じ場所に居合わせることで、あるいは、利害が合うとわかれば、ときには協力し合う様子。

③0

言語道断

言葉で語れないほどにひどいこと。

③1

臥薪嘗胆

苦勞に苦勞を重ね、耐えに耐えて目的を果たすこと。



③2

感慨無量

心に深くしみみて計り知れないような、言葉で表現できないしみじみした気持ちがあふれる様子。

③③

勧善懲悪

勧善懲悪とは、善いことを勧め、悪を懲らしめること。

③④

共存共栄

共存共栄とは、いくつものものが共に存在して、共に栄えること。

③⑤

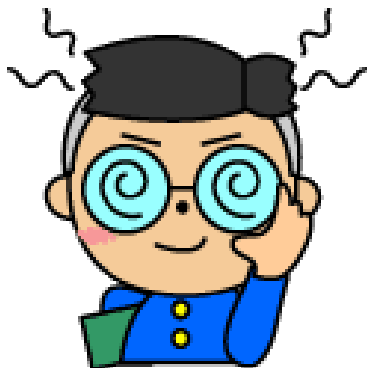
興味津津

興味津津とは、興味が次々にあふれ出るような気持ちになる様子。

③⑥

金科玉条

重要な規則や法律、または、よりどころとなるルール。



③⑦

厚顔無恥

あつかましく、恥ずべき姿勢が全く感じられない様子。

③⑧

古今東西

今も昔も時代によらず、また場所の違いにもよらず、いつでもどこでも不変の事柄。

③⑨

虎視眈眈

全くすきのない計画性や態度によって好機をうかがっている様子。

④⑩

五臓六腑

腹の中の様々な臓器や、体のすみずみにまで及ぶ範囲。

④1

小春日和

秋の和やかな春のような日のこと。

④2

五分五分

一つの勢力が、ちょうど同じくらい
力で差がない状態。

④3

三寒四温

秋から春にかけて、寒い日が三日、暖かい日が四日と
いうように、徐々に暖かくなる様子。

④4

自画自賛

自分の事あるいは作品などを、自分で褒
めたたえること。



④5

自給自足

自分で食べたり使用したりするものは、
全て他人の手を借りずに自分で作ったり
調達したりすること。

④6

晴耕雨読

晴れた日には畑を耕し、雨の日には本を
読むというように、自分の意志で決めた生活
スタイル。

④7

絶体絶命

ピンチに追いやられ窮地に立たされた困難な状態。



④8 前代未聞

過去に聞いたことがないような、
めずらしい話。

④9 七転八起（七転び八起き）

何度失敗してもそのたび起きあがり、
あきらめない様。

⑤0 誠心誠意

まごころのこもった誠実な態度。



3 慣用句

① 揚げ足を取る

相手の言葉じりをとらえてとがめる。

② あごで使う

いばった態度で人を使う。

③ 足が出る

予定より費用が多くかかる。

④ 油を売る

無駄話をして、仕事をなまける。

⑤ あわをくう

ひどく驚きあわてる。

⑥ 生き馬の目を抜く

人を出し抜いて、すばやく利益を得ることのたとえ。

⑦ 息をのむ

ひどく驚いて息をつくことができない。

- ②② 気が置けない 遠慮がいらす、気楽に付き合える。
- ②① かぶとを脱ぐ 降参する。
- ②⑦ 肩を持つ 味方する。
- ②⑨ 肩を並べる 対等の地位に立つ。
- ②⑧ 肩の荷が下りる 責任を果たしてほつとする。
- ②⑦ 顔に泥をぬる 恥をかかせる。
- ②⑥ 顔から火が出る 恥ずかしさで顔が真っ赤になる。
- ②⑤ 顔が広い 付き合いが広い。



- ②④ 板につく 仕事や役柄がその人にぴったり合う。
- ②③ 犬も食わぬ あまりにくだらなくて、だれも相手にしない。
- ②② 後ろ髪を引かれる 思いきることができず、心残りがある。
- ②① 後ろ指をさされる かげで他人から悪口を言われる。
- ②⑦ 馬が合う 気が合う。
- ②③ お茶をにごす いいかげんにその場をごまかす。
- ②④ 折り紙をつける 人物や物を確かだと保証する。

②3 木で鼻をくくる

無愛想に應對する。

②4 肝を冷やす

驚いてひやっとする。ぞっとする。

②5 口が重い

言葉数が少ない。無口だ。

②6 口がすべる

うっかり言ってしまう。

②7 首を長くする

今か今かと待ちこがれる。

②8 腰を折る

物事の途中でじゃまをする。話をさえぎる。

②9 舌を巻く

非常に驚いたり感心したりする。

③0 すずめの涙

ごくわずかなもののたとえ。

③1 凶に乗る

思い通りに進んで、いい気になる。

③2 太鼓判を押す

まちがいないと保証する。

③3 高をくくる

たいしたことはないと見くびる。

③4 手塩にかける

自分で苦労して世話をする。

③5 猫をかぶる

おとなしいふりをする。

③6 歯が立たない

相手が強くてかなわない。



③7 鼻であしらう

相手を馬鹿にして冷淡に扱う。

③8 鼻につく いや気がさす。

③9 腹を割る 本心をさらけ出す。

④0 非の打ち所がない 欠点がない。

④1 骨が折れる 手間がかかり、とても苦勞する。

④2 耳が痛い 自分の欠点を言われて、聞くのがつらい。

④3 耳にたこができる 何度も同じことを聞かされ、うんざりする。

④4 身を粉にする 苦勞をいとわず、一所懸命（一生懸命）働く。

④5 虫がいい 自分の都合ばかりを考え、図々しい様子。

④6 胸をなで下ろす 心配が解消して、ほっと安心する。

④7 目が高い 物事を見分ける力がある。

④8 目から鼻へ抜ける 非常にかしこい。抜け目なくすばしこい。

④9 目に余る あまりにひどくて見ていられない。

⑤0 横車を押す 道理に合わないことを無理に押し通す。